

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アビリティキッズききょうだいら（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2026年3月21日 土曜日		～	2026年4月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	3人
○従業者評価実施期間	2026年3月21日 土曜日		～	2026年4月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月20日 月曜日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	視覚化されたスケジュールや自席、ロッカー等に名札があり、自立に向けた支援、体制を整えている	自分の座る席、荷物を入れるロッカー、今日のスケジュールは時計のイラストを用いて時間を見る支援と一緒に、次はなにをするのか自分で確認できるような視覚化を取り入れています。またタイマー等を用いた切り替えの練習も行っています	決められたルールを守る習慣を身につけつつも自由時間等の自発的な取り組みを増やしていきたい
2	月に一回他事業所と合同で勉強会を開催しており、より専門的な支援ができるような体制を整えている	その時、その時の問題点や課題点を専門的な知識を用いた支援内容の検討であったり、職員の気付きを与えられるような勉強会を心掛けています	すべての職員が専門的な知識を平等に持てるように取り組んでいきたい。職員が勉強会内容を考え、共有できる「インプット・アウトプット」の機会をもっと増やしたい
3	親子が参加できる企画を増やしており、親子の関わりや親同士の交流等、事業所の透明性や理解を深めていただけるような企画を増やしている	学校生活とは違った、日常生活では得られないような体験を目標に遠出も含めて取り組んでいます。 職員の対応も見れたり、同じ事業所に通っている子供や親と関わりを持つことにより、相談できる相手を増やしていく取り組みを行う	企画や外出先など、親子から希望を聞き、実現できるような工夫をしていく。特性上、周囲に迷惑をかけるからといけない場所がそれぞれあるため、職員のフォローを通じて実現していく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースに限りがあり、部屋数が少ないため、クールダウンする専用の部屋がない。	クールダウンが必要な際には、周囲が気になってしまいなかなかクールダウンできない。また、高学年になると運動を取り入れた集団でのゲームは狭さを感じることもある。	気分転換に外に連れ出す等の工夫が必要で。運動面では、天気の良い日には近隣の公園に出かけています
2	保護者へのペアレントトレーニングを活発に行えていない	保護者のニーズをしっかりと聞き取り必要な情報を提供する必要があった。 個別では、困りごとに対し解決できる様支援していますが保護者の方全体に行える機会を設ける必要があった。	ご家庭で抱える困り事をしっかりと聞き取り、どのようなペアレントトレーニングが必要か把握し機会を作っていく。
3	緊急対応マニュアル等の保護者への周知が充分ではない	保護者一人ひとりにマニュアル等についての伝達が行き渡っていない為、十分に周知されていないと思われる。	今後も訓練を重ねると共に、保護者の方には面談時にお伝えし周知をしっかりと行っていきます。